

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102541		
法人名	株式会社グループホーム		
事業所名	六条の杜		
所在地	岐阜市六条片田一丁目21-6		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&jigyosyoCd=2170102541-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成25年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいて いつも笑顔で 優しい介護 を目指す。 職員手作りの食事が好評です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明るく落ち着いた居間で穏やかに寛ぐ利用者と笑顔で対応する職員が、いつもの日常を想像させる。これまでは法人の理念のみだったが、職員で話し合い事業所独自の理念を作っている。「生き活きとした利用者 いつも笑顔でやさしい介護 お互いに助け合える環境を目指します」はこれまでよりも簡潔でわかりやすいものとなり、現在は毎日復唱しケア場面で共有を図っている。またこの事業所の特徴は看取りのケアである。これまでに多くの利用者を見送り、これを自然なことで受け止めている。これからもこの姿勢は変わらないと思われる。よりよいケアの提供に対する思いは強く、地域との連携、家族とのつながり、サービスの向上などへの前向きな取り組み姿勢が感じられる。一步一步、自分たちが目指すケアに着実に向かっており、今後は楽しい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念を申し送りのあとに復唱し改めて理念を心に刻んでケアに入るよう心がけている。独自の六条の杜の理念を考えたともに復唱している。	職員で話し合い、「生き活きとした利用者 いつも笑顔でやさしい介護 お互いに助け合える環境を目指します」という事業所独自の理念を掲げている。理念の共有を図りながら実践につなげる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1ヶ月に1回廃品回収があり町内の所定の所にダンボールや新聞を出している。散歩のときに状況に応じて話をしたり挨拶をしている。	ほぼ毎日散歩が日課として組み込まれている。また廃品回収の新聞、段ボール出しは、利用者にも手伝ってもらっている。地域の防災訓練に参加することを検討しており、地域とつながった生活を大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第3火曜日に介護相談日をもうけることとし地域との交流に努めている。(く回覧板でまわしてもらう。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長様に出席いただき地域での交流や避難訓練での援助など活発な意見が出それを下に考え実践し向上に勤めている。	利用者の家族も参加して開催されている。地域交流に関することや災害訓練など、意見交換を行っている。今後地域の連携を深めるために、新しい参加者の検討も考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とはパンフレットの変更や利用者とのトラブルなど非常に密接に連絡を取り助言いただいたり指導していただいている。	運営推進会議の際の話し合いの他、入居金のことや利用者について具体的な相談に乗ってもらうなど、協力的な関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実際に自動ドアでいつでも出て行けるようにしております。夜間20:00より朝7:00までは防犯の為施錠しております。	拘束については、昨年接遇教育の中で3回研修している。特に新人スタッフには、「止めて！」「立たないで！」「だめ！」などの言葉による拘束に気遣うよう指導し、ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	暴力の虐待はありませんが、精神的な虐待と言葉の虐待は知らずに使っていることが多くありましたが最近では殆どみられずもし行なっている場合はサポーター同士で注意を払っています。虐待防止マニュアルの勉強会を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が2名おられ勉強させていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	24年度において利用料の改定があり文書をもってご理解いただき電話でも必要な疑問にはご説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において利用者の家族より要望意見などの発表がありそれを下に運営に繁栄させていただいています。	運営推進会議での意見交換やこれ以外の場面でも意見をくみ上げ、運営に反映するよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、六条会議において職員の意見を聞き経営会議にもって行き提案など代表者に聞いていただいています。	月1回ある職員会議では様々な意見交換が行われ、職員の意見が反映される仕組みができています。年間計画は職員の意見を聞いて立案したり、利用者の状況を見ての席替えも職員の提案により実施につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回人事考課をすることにより職員の勤務状況など把握することに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社の運営目標に施設内研修と施設外研修とあり月ごとに勉強会を行なっている。施設外研修は24年度はあまり参加できなかったのが今年の目標にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設のサークル活動に利用者を参加させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	H24年は利用者様の出入りが激しく利用者様が何故このホームに入所しなければならなかったのかをサポートが納得しケアに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	他の施設で暴力的な行為とか暴言など我がまま放題の利用者が当ホームに見えてから穏やかになられ家族が困らせていないか心配されていましたが今は安心していただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家での自立生活が難しく歩行も困難で人との交流も難しく思えた方が今は歩行も見守りでよくなりホームでの団体生活に溶け込んでおられる為自立できたら家庭へもどられデイサービスを使用しながらの生活も考えられるのではと考えます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に洗濯をたんでいただくとかモップの掃除を助けていただくとか料理に参加していただくなど毎日話し合いながら家事に参加していただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望や期待を伺い利用者様との良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がお友達に電話を掛けたいといわれるときがあり、ホームの電話を使っています。面会にも来ていただいています。	利用者の自宅近くに行って近所の人と話をしたり、友人との電話での会話、これまでの美容院の利用などの支援をしている。また事業所近くの喫茶店は新しい馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等は両棟合同で行なっている。会話がトラブルにつながる場合はサポーターが間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や本人より相談があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を第一に考えてできることとできないことを話し合いながらケアに望んでいる。	常に利用者の思いを聞くように心掛けている。入浴時と夜勤帯に一对一のケアができるので、それぞれの思いを聞き、申し送りノートで職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護記録やアセスメントシートにより一人ひとりの馴染みや生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日でも長く健康で快適な生活を送って頂くよう度量くしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、ケアプランやアセスメントを各自担当者を決め六条会議で発表してもらいます	利用者の状態を個々のケア記録に記載し、また毎月開催する会議で情報交換をし、職員間の共有を図っている。介護計画に対する評価の記録を検討し、介護計画の見直しに活かしていきたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者様の気づいたことや実践したことなど六条の杜の独自の申し送り帳にサポーター全員にいきわたるよう記入し六条会議などで話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の毎日の状況に応じて型にはまらないケアを考えている。 日々、努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護・利用・ボランティア・マッサージ・司会などここにはないサービスを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は訪診を行っている所は4ヶ所ありそのうち1ヶ所は家族の希望するかかりつけ医である。	かかりつけの医師による継続的な支援をしている。受診には家族の協力を得ている。協力医の往診は週2回あり連携を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りの再や伝達ノートなどで、みんなが状況を把握できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院にサマリーを渡し状況を提供している。かかりつけ医の病院に入院するケースが多く連携が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族がホームでの見取りを望まれる場合は主治医と連携をとりながら支援に取り組んでいる。	協力医や訪問看護との連携により、24時間対応ができる体制がある。また「重度化対応指針」をもとに関係者と協議を重ね、看取りの経験を多くしている。経験が信頼となり、安心できる事業所を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル・アクシデント対応マニュアルを常時見えるところにおき勉強会などで取り上げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い〈昼夜ともに〉対応している。スプリンクラーや火災報知機は設置済み。	消防署の指導の下、防災訓練を実施している。地域の人に協力を求めているが、実施には至っていない。災害時の備品の整備を昨年課題に挙げていたが、十分揃っておらず検討中である。	職員だけの誘導には限界があり、地域住民等と連携を図りながらの支援体制強化は重要である。根気強く理解を求められたい。また備品の早期検討が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇対応マニュアルなどにより言葉賭けには気を使っている。接遇勉強会を定期的に行なっている。	人生の先輩として敬意を払い、名前で呼ぶようにしている。排泄時は人前であからさまに誘導の声掛けをしないよう、また居室やトイレのドアを閉める気配りも行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴前の着替えの準備として好きな服を選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクなどみんな行なうことは時間が決まっているのであとは編み物をしたり居室でテレビを見たり自由に過ごされています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり美容院へ行ったりそれぞれ身綺麗にされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養委員が利用者の好きな食べ物のアンケートをとり献立に取り入れている。食事や片付けは職員と一緒にしている。	家族には入居時に嗜好を聞き、利用者には不定期で食事のアンケートをとり献立に取り入れている。誕生日月は外食が楽しみとなっている。昨年目標であった1日33品目が達成できた。今年度は行事食を検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量のチェック表をつけこの摂取量を把握している。栄養面では栄養委員会によりカロリー計算することにより栄養のバランスを考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしたというチェック表がある。 週1回歯医者による口腔ケアの指導がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居当初はオムツの使用をしていたが必要としなくなっている利用者が2・3名いる。	オムツを使用していた利用者が排泄の自立に向けた働きかけにより、オムツの使用を減らし、トイレで自立した排泄ができるようになっていく。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に気をつけたり体操などの運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1週間に3回入っていただいています。入浴は好きな方ばかりで楽しんで入っていただいております。	朝入浴を希望する方があり対応している、お風呂好きな人にはじっくりと入ってもらったり、ゆず湯などでお風呂を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息はいつも状況に応じて考えている。夜間も人に応じて照明を調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の出した薬をサポートがもう一度確認し利用者に服薬していただいている。確認する為利用者一人ひとりがなにを飲んでいるかがわかる。薬の説明書を読んだりして意識は高まっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に抹茶を立てていただきお茶会を催しております。社交ダンスなど昔踊って見えた方がありダンスパーティーなど時々行なっております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日お天気の日には散歩に出かけ出ている。何か欲しいものがあれば外出レクといってコンビニかアピタまで買い物に出かける。	気分転換やストレスの発散のためにも外気に当たることは大切であると考え、散歩に出かけるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布に1,000円程度の現金を持っていただくことにより安心感を持っていただいております。 お出かけツアーを毎月1回行い自分で財布からお金を払っていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも翔れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁面飾りを職員とともに作成している	共用空間には季節感を感じられるよう花が飾られ、ゆったりと寛げるようソファが置かれている。また毎食事には調理のにおいが漂い、利用者の食欲を引き出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーのテレビの前のソファなどで気のあったもの同士で和気藹々と過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居のときにできるだけ今まで使用していたものを持ってきていただくようお願いしている。	入居時の働きかけにより、馴染みの物を持参されるようになっている。各部屋には鏡台やテレビ、家族の写真、タンスなどが置かれ、その人に合った居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには三方に手すりが着いています。洗面所も居室ごとにあり自立をうながしています。		